

佳作 チエンジ

ある日お母さんが、

「親子を交代しない？」

と言ってきた。お母さんは家事がきらいだからだろうと思つたので、ほくは、

「交代する。」

と喜んで答えた。なぜなら交代すれば夕飯は好きなものが食べられるし、勉強もやらなくてすむと思つたからだ。

「なら、いつから交代する？ 今から？」

「じゃあ明日の朝からにしよう。」

「でも明日の朝、部活はほくのかわりにお母さんが行くってこと？」

「そうね。」

「でも休まず行けば最後の日にジューズがもらえるかもしれないから、お母さんじゃだめだよ。」

「じゃあ帰ってきて十時から交代ね。」

お母さんがうれしそうに顔をしていたので、ほくもなんだか楽しそうだなあ、と思つた。

部活が終わって家に帰ると、お母さんが、

「早く、交代するよ。」

と洗たくを干している途中で言った。ほくは洗たく干しから交代するのがイヤだったので、

「ちよつと待って。チエンジって言ってタッチしないと交代はできないの。」

というとお母さんは、無理やりほくを押ししたおしと、タッチしてしまった。そのしゅん間お母さんとほく

千葉県

我孫子市立根戸小学校六年

上田 恭平

は入れかわつてしまい、結局洗たくを干すところからお母さんの仕事をやらされてしまった。干している間にお母さんが昼ごはんは、何にするのか聞いてきた。

「昼ごはんほくが作るの？」

「当たり前じゃん。」

ほくはめんどうくさい、と思つたけど作つた。夕飯のおかずは、フライドポテトとハンバーグにしたいと思つた。バターロールとひき肉とレタスを買つて来た

けど、作り方がわからなかつたのでお母さんにハンバーグの作り方だけ紙に書いてもらった。その間お母さんには、勉強をさせた。

「一日4ページはドリルをやらなさいといけないんだよ、まず漢字をやりなさい。」

お母さんはいやな顔をしたけどやりはじめた。

「きれいな科目は2ページやりなさい、エーっていったらページ増やすよ。」

とほくは言った。だつて、お父さんと毎日やる約束をしたのだから。

料理をつくるのは面白いと思つた。思つたより上手にできた。お母さんが美味いと言ってくれたので、

また作つてみたいと思つた。でもその後に洗う物がめんどうさかつた。家事つてめんどうくさいものばかりだ。

一日交代してみたら、すごくつかれたし、子供に勉強をしないといつて言うのが大変だつた。やっぱり子供の方が楽だなと思つた。いつもこんなに変なことをして

いるから、ありがたいなあ、と思つた。